

「まことの感謝は苦しみの後に」

～荒野での40年を経験しなければならなかったイスラエルの民～

「あなたの神、主が、あなたのするすべての事において、あなたを恵み、あなたがこの大なる荒野を通るのを、見守られたからである。あなたの神、主がこの四十年の間、あなたと共におられたので、あなたは何も乏しいことがなかった」。

申命記2章7節

イスラエルの民が出エジプトをしてから、約束の地に入るまでに40年という長い年月を要しました。その道のりは、3日もあれば到着するような距離であったにも関わらず…。

しかし、その行程で彼らは主なる神がご一緒におられることを経験しました。「約束の地」、安住の地は、実際の土地のことではなく、主ご自身こそが「約束の地」であり、安住の地であることを教えたかったのではないか。もうすぐクリスマスですが、イエス様ご自身も「インマヌエルー神我らと共にいます」というお名前をお持ちの方でもあるということ。イエス様こそが私たちの約束の地であり、人類すべての人の、安住の地であるということなのだと言書は語っているのではないのでしょうか。

以下は韓国オンリ教会の元牧師で天に召された、ハ・ヨンジョ先生のことばです。

「詩篇には、二つの独特な単語が見られます。『感謝せよ』と『賛美せよ』です。この宣言のことばは、詩篇全体をいっぱい満たしています。感謝はやがて賛美へと変わります。

人間が用いる言語の中で『感謝』という言葉ほど偉大で祝福に満ちたものはないでしょう。まことのクリスチャンなら、神にささげる感謝と、神から受けた感動が言葉と行いに現れていなければなりません。生活の現場で辛く苦しく、損をし、迫害されるとしても、神のゆえに感動できなければなりません。

聖書を深く読むとき、多くの苦痛と試練の嵐を通った人々には、まことの感謝が見られます。苦難を知らない人は、感謝の深さと祝福を知りません。死の谷を越えた人、絶望から再び人生を見出した人、もはや希望はないと思った所から回復した人には、まことの涙があり、喜びの感謝があります。まことの感謝は苦しみの後にあり、恵みの中にあります。『ああ言葉の限り歌わまほし 主イエスの栄えと 愛と恵み』という讚美歌があります。クリスチャンのくちびるはいつも感謝と賛美で満ちていなければなりません。今日寝る前、神の感謝と賛美をささげ、祝福の人生を歩まれますように。」

『感謝の夕べ』から

パウロは教会の中で問題が起った時、共に主を見上げて感謝を捧げるように導きました。今日は「収穫感謝礼拝」です。主に感謝を捧げる特別な礼拝です。普段から感謝できていないことにも焦点を当て、心から感謝できるように、私たち自身の心に「感謝のころろ」が満たされますように祈り求めましょう！